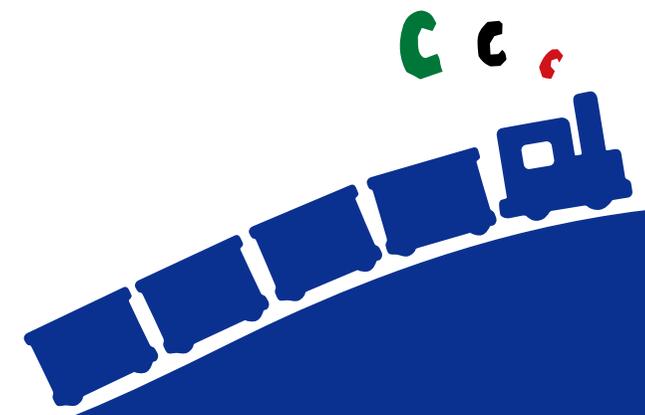


2017



 **愛知淑徳大学**
コミュニティ・コラボレーションセンター

長久手キャンパス
〒480-1197
愛知県長久手市片平二丁目9
TEL (0561) 62-4111 (代表)

星が丘キャンパス
〒464-8671
名古屋市千種区桜が丘 23
TEL (052) 781-1151 (代表)

CCC

活動報告書

愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター



この印刷物は古紙パルプを含む再生紙を使用しています。

2017年度CCC活動報告書
発行：愛知淑徳大学
コミュニティ・コラボレーションセンター

コミュニティ・ コラボレーションセンター (CCC) とは

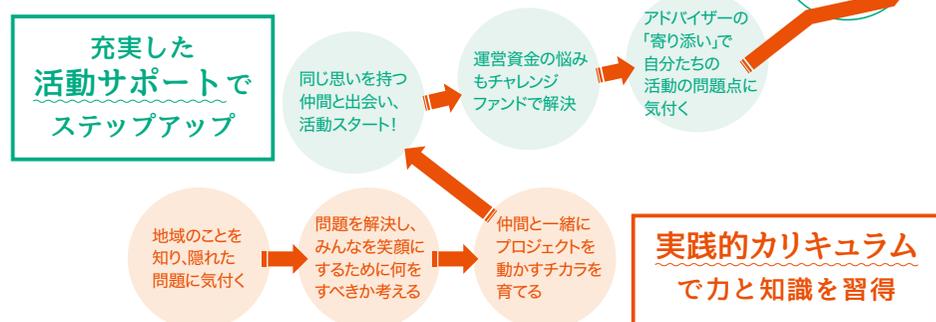
広い視野と行動力を身につけ、社会人基礎力の向上を目指します。

「地域に根ざし、世界に開く」を基本姿勢に、学生一人一人が地域で活躍し、社会に貢献できる人材になることを目指しています。ボランティアに留まらず、学外のさまざまなコミュニティとの連携を強め、「実践的カリキュラム」と「活動サポート」の両軸で学生たちの意欲や思いを実践的な活動に結びつけています。

CCCの学生育成ビジョン

みんなの「笑顔」で地域を、そして社会を変えよう。

広い視野と行動力を養う実践的カリキュラムと、スタッフの温かいサポートで他人を思いやれる、「素敵なオトナ」にブラッシュアップ!



CCCの特色

1 「地域や社会に貢献したい」という 思いに応える実践的カリキュラム

CCCでは、企業が実際に抱える課題をグループで解決していくPBL(課題解決)型授業、ボランティア活動やまちづくりに関する基礎知識を学ぶ講義型授業などを通して社会貢献活動について学びます。



2 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

地域の行政機関、企業、NPOなどからボランティアの募集情報が届きます。CCCでは、学生の思いに耳を傾け、それに合わせたボランティア活動を紹介・支援しています。



3 学生が企画・運営する地域活動をサポート

CCCでは、地域での課題を自ら発見し、それらを解決するために、数多くの学生団体が活躍しています。活動に行き詰った場合は、CCCスタッフが寄り添い、一緒に課題の解決を目指します。



目次



1. 2017年度 特別報告	
「コラボメッセ」	4・5
2. 2017年度 活動実績	6・7
3. センターの取り組み	8
3.1. カリキュラム	8・9
3.2. 活動サポート	10
(1) マッチング	11
(2) 活動支援	12・13
(3) チャレンジファンド	14・15
4. 学生スタッフの活動	16・17
5. 学生スタッフ紹介	18
6. センター長 講評	19
7. 初めてボランティアを募集される方へ	19

Information

2016年2月
「CCC labo」開設

**みんなの笑顔で、地域を変えよう!
活動の様子を絶賛公開中!**

本書にて紹介しきれなかった学生たちの活動の様子を、特設サイト「CCC labo」にて発信しています。ぜひご覧ください。



←QRコードまたは で検索!

1 コラボメッセ



2017年10月15日(日)、星が丘キャンパスにて、行政機関、企業、NPOなど(以下、CCC連携団体)の皆様と学生が一堂に会して、活動発表&交流をする「コラボメッセ」を行いました。2015年度から年1回開催しており、

CCCに関する学生団体25組とCCC連携団体23組が参加。活動内容を紹介しあったり、グループワークを通して交流することで、学生たちは多くの刺激を受け、自分たちの活動の発展につながるヒントを見つけました。

第一部

活動発表



学生団体25組、CCC連携団体23組が参加しての活動発表。それぞれ関心のある団体と積極的に交流を行いました。ここでの交流を機会に、新たな連携が生まれ、CCC連携団体が主催するイベントに学生が参加するなど、新たな繋がりも生まれています。

第二部

交流会「コラボ企画をつくってみよう！」



学生団体とCCC連携団体がチームとなり、グループワークをおこないました。テーマは「社会を変える、何かができる!」。団体それぞれの強みを生かして協力し合うことで、実現できるようなプロジェクトについて検討しました。生まれた企画は「新こめクラブ(米作りを通して地域の方と四季のイベント)」「大運動会をしよう(障がいのある人もない人もともに競技に参加)」など。終了後には「実現したいね!」という声が聞かれ、新たな連携が生まれる可能性が広がりました。

第三部

CCC@homeライブ



カフェブースを行ったNPO法人楽歩、(株)フォルツァ、社会福祉法人ポレポレの障がい者の方々、参加いただいた団体の方々と学生とで大合唱を行いました。学生スタッフの選曲は、CCC開設の年に流行した曲「ボクノート(スキマスイッチ)」。ギターを生演奏とダンスも交えながら、会場が一体となり、あたたかい時間を過ごすことができました。

連携団体様の声

東邦ガス(株)ガスエネルギー館

副館長 八木 様



CCCの学生さんには、平成21年から継続して子ども向けイベントなどでお世話になっています。諸先輩のDNAを引き継ぎながら、進化を続けるチームは、小学生にも人気です。私もコラボメッセで「障がい者支援」の視点を新たに学び、それが弊館でのNPO法人WAFCAさんとCCC学生さんによる「ポッチャ大会」、NPO法人楽歩さんによる「障がい者作品展覧会」などのコラボにつながっています。皆さまのおかげで「(近江商人の)三方良し」と「継続は力」を実践できており、コラボメッセの貴重な機会にとっても感謝しています。

参加した学生スタッフの声



「コラボメッセ」は学生と学外の方々が地域の課題を一緒に考え、良い企画が出れば実行につながって、もっと地域をより良くしていくきっかけとなるイベントです。そのため、話しやすい雰囲気をつくることを心がけて司会を行いました。また、いつもお世話になっている地域のみなさんと心がほっこりするような時間が過ごせるよう、歌の時間も設けました。みなさんとこの一日を過ごすことができたことを感謝しています。学生と地域のみなさん、企業の方々の想いや力が合わさると素敵な企画や案ができるのだと実感しました。

ビジネス学部 4年 石黒 友理

ご協力いただいた CCC連携団体のみなさま

愛知県被災者支援センター、NPO法人アジア車いす交流センター、公益財団法人アジア保健研修所、NPO法人アスクネット、こどもNPO、公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・愛知、瀬戸信用金庫、ソーニーグローバルマニュファクチャリング&オペレーションズ(株)、千種区社会福祉協議会、中日森友隊、(株)デンソー、東邦ガス(株)ガスエネルギー館、長久手市たつせがある課、「なごや環境大学」実行委員会、名古屋市市民活動推進センター、名古屋市障害者スポーツセンター、名古屋市総務局大学政策室(ナゴ校)、日進市市民協働課、NPO法人ぶくぶくぼーん、NPO法人ボラみみり情報局、ボランティアサークルJDRトヨタ(トヨタ自動車(株))、名古屋社会福祉協議会、NPO法人レスキューストックヤード

※あいうえお順

2 2017年度

コミュニティ・コラボレーションセンター 活動実績

●利用状況

CCC登録者人数 3,163人
利用者数 延べ18,937人

登録 ボランティア活動に参加するためのCCCへの登録
利用者 情報取得、活動の相談、ランチタイム企画参加、ミーティングなどで来室する学生

ボランティアへの参加者数* (分野別)

年度	国際交流・協力	青少年育成	まちづくり	福祉	環境	学生団体	その他	計
2017年度	144	234	163	293	150	1,039	83	2,106
2016年度	99	228	162	339	210	-	76	1,114

*CCC登録団体から募集があったボランティア活動にCCCを通して申込み・参加した学生、または学生団体などの自主活動 (P.12・13参照) での活動に参加した学生を指す。

●産学官連携事業 (抜粋)

- 瀬戸信用金庫との連携
有志学生が瀬戸市内の保育園での「すみれの苗贈呈式」とレクリエーションの企画・運営
- 東邦ガス(株)との連携
学生団体「エネAS」が、ガスエネルギー館にてイベント企画・運営 (年3回)
- ボランティアサークルJDRトヨタ (トヨタ自動車(株))との連携
有志学生との共同企画として、児童養護施設の子どもたち、高齢者、アジアの研修生、障がい者の方々とともに避難所体験を実施
- 東谷山フルーツパーク、グリーンシティケーブルテレビ(株)との連携
有志学生との共同企画で、東谷山フルーツパーク内でのイベントを企画・運営
- 愛知県との連携
かがやけ☆あいちサスティナ研究所の研究者として本学学生が参加
- 愛知県警察、長久手市との連携
学生団体「tASUkeai」が、防犯体験学習イベントを企画・運営
- NPO法人楽歩との連携
有志学生が「ぼらマッチ!なごや」にてカフェを企画・運営
- 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ(株)、名城大学との連携
有志学生との共同企画で、児童養護施設の子どもたちをプロバスケットボールの試合に招待するイベントの企画・運営

●受託事業 (抜粋)

- 男女平等パートナーシップ事業 (委託者:日進市)
- 子ども大学につしん講座 (委託者:日進市)
- グリーンマップ作成プロジェクト (委託者:長久手市)
- 名東区人権尊重のまちづくり事業 (委託者:名古屋市長東区)
- 平成29年度移住・定住・交流推進事業「特産物づくりを観光振興・魅力あるまちづくりへ結びつける取り組み」 (委託者:西尾市)
- 市民後見人プロモーションビデオ制作 (委託者:日進市)

●助成金交付事業 (抜粋)

- 日進市福祉課より助成
・学生団体「ちゃっちゃん」による障がいのいる子とない子の交流イベントの企画・運営
- 名古屋市白金児童館より助成
・有志学生による中高生の居場所づくりイベントの企画・運営
- 国際ソロプチミストより助成
・学生団体「ボランティアサークルあじゅあす」による障がい者や高齢者対象のイベントの企画・運営

●メディア掲載情報 (抜粋)

発行日	掲載紙	掲載内容
2017年5月27日	中日新聞	長久手市の小学生と本学学生が、キャンパス周辺の自然や環境に関する情報をまとめた「グリーンマップ」を作成
2017年6月6日	中日新聞	長久手市の介護施設「やさしいところ」閉鎖に伴い、交流を行ってきた学生団体「コミュカフェ」が最後の企画開催
2017年7月2日	中日新聞 (知多版)	茶華道部員が視覚障がい者を招き、お茶会を開催
2017年7月17日	中日新聞	障がいがある人とない人が一緒におこなう「ユニファイドスポーツ」のイベントを開催
2017年8月	エフエムとよた(株)	学生団体「きらきら☆したら」が「プレミアインタビュー LOVE LINK」に出演
2017年11月29日	中日新聞	学生団体「tASUkeai」が長久手小学校で体験型防犯教室を開催
2018年1月24日	中日新聞	学生団体「名古屋コーチンもりあげ隊」が愛知県知事とともに名古屋コーチンをPR
2018年2月27日	中日新聞	学生団体「tASUkeai」が愛知県警察より感謝状を受領
2018年2月28日	中日新聞	学生団体「名古屋コーチンもりあげ隊」が名古屋コーチンの魅力をまとめた冊子「とりせつ」第2弾を作成
2018年3月10日	中日新聞	学生団体「Teamみその」が御園通商店街と毎月おこなっている「五百円市」の活動紹介



表彰・認定

●学生団体「tASUkeai」感謝状 受領

愛知県警察、長久手市と連携して地域の児童館や小学校で「防犯教室」を企画・運営している「tASUkeai」が、愛知県警察子ども女性安全対策課よりその活動が評価され、受領しました。



2018年2月15日 感謝状 受領

●学生団体「Baby♥♥」 「長久手市まちづくり甲子園」第3位受賞

親が子どもに愛(気持ち)を伝えられる親子参加型イベントの企画提案で「Baby♥♥」が長久手市が主催する上記事業にて、その企画が評価され、受賞しました。



2018年2月10日 受賞式

3 センターの取り組み

3.1 カリキュラム

地域へ、未来へ、走り出す。
自ら考え行動する力を育みます。

CCCでは、地域と連携して取り組む社会貢献活動に、学生が段階的にチャレンジできるよう「CCC開設科目」を開講しています。ボランティア活動の基礎や、地域の方々と協働するうえで必要となるマナーや支援方法などを学ぶ「知識系科目」、仲間と一緒に活動を起こす際に必要となる手法や考え方を学ぶ「スキル系科目」、社会が抱える問題の解決に向けて実際にアクションを起こすプロジェクト型の「実践系科目」など、多様な科目構成で実際の活動や将来に役立つ知識やスキルを修得します。



2017年度CCC開設科目 一覧

●知識系

CCC スタートアップ講座	金治 宏 先生 小早川 真衣子 先生
ボランティア	金治 宏 先生 北村 政智 先生 向井 忍 先生
障がい者支援ボランティア	荒賀 博志 先生
まちづくりマーケティング	大塚 英揮 先生

●スキル系

企画立案の基礎	NPO 法人 アスクネット 原田 穂高 先生
ファンリレーター養成講座	井上 淳之典 先生

●実践系

CCCキズナプロジェクトA・B	金治 宏 先生 小早川 真衣子 先生
-----------------	-----------------------



授業報告 「CCCスタートアップ講座」

履修生の声



授業でCCCに登録している学生団体の紹介があり、活動内容などを聞くことができ良かったです。私自身すでに団体に入っていましたが、授業をきっかけに、興味を持った団体のミーティングを見学しに行きました。実際に話を聞くことでより詳しく活動内容や雰囲気を知ることができました。この授業で新たな発見が生まれました！

福祉貢献学部 1年 大口 綾佳



ボランティアや社会貢献に関心があり、また、「何かやってみたい」と考えている人に向けて開講している入門科目です。授業では、社会課題の解決に取り組む具体的なアクションを紹介して、広い視野を身につけます。さらに、コミュニケーション技法を体験的に学び、経験不足への不安から一歩を踏み出せないでいる学生のスキルと自信を養います。特に、今年度行ったCCC学生団体のメンバーによる活動発表は受講生に人気の内容でした。発表では、活動を始めたきっかけはそれぞれ些細なことであったこと、それでも地域の方々に協力していただき活動を続けて

いることが自分や仲間の今に繋がっているというリアルな成長の姿が紹介されました。また、活動の背景にある社会課題についても理解を深めました。コミュニケーション技法を学ぶ時間には、自分が当たり前と思っている考えや感覚が他者にとっては当たり前ではないことを実感するワークなどを行い、異なる立場の人たちが互いの力を発揮できるコラボレーションの魅力を味わいました。これらの学びが一歩を踏み出すきっかけになればと期待しています。

文責：小早川 真衣子



授業名 「CCCキズナプロジェクトA」

履修生の声



人がある事象に対し、それを自分ごととして捉えるようになるには、「自分に関係があるかないか」が最も左右すると思っていました。しかし本プロジェクトを通して、自分には関係のなかった知らない地域の課題でも、地域の中に入っていき、「好き」を見つけ「好き」を増やしていくことで、自分ごとになることがわかりました。

メディアプロデュース学部 3年
加藤 芙実



「まち」の活性化や地域社会が抱える課題に対して、実際にアクションを起こしていくプロジェクト型の実践系科目です。前期は、覚王山商店街(千種区)と連携し、学年も学部もバラバラな29人の学生たちが6グループにわかれ、商店街の方々へのインタビューを実施。その内容をもとに活性化に向けたアイデア出し、ディスカッションに取り組みました。この授業で重視したのは、「若者」であり「よそ者」である学生ならではの視点で「まち」を捉え、自分ごと引き寄せながら問題を発見するプロセスを実践すること。結果、次世代の商店街の担い手を育てる「こ

どもdeマルシェ」や世代を超えた感動を仕掛けることで折り合いのある地域を目指す「覚王山コムローイまつり」など、学生らしい斬新な働きかけを商店街の方々に向けて提案することができました。今回は、残念ながら授業の中では実際のアクションを起こすに至りませんでしたが、一部の学生がビジネス学部の研究活動として商店街との連携を継続させています。

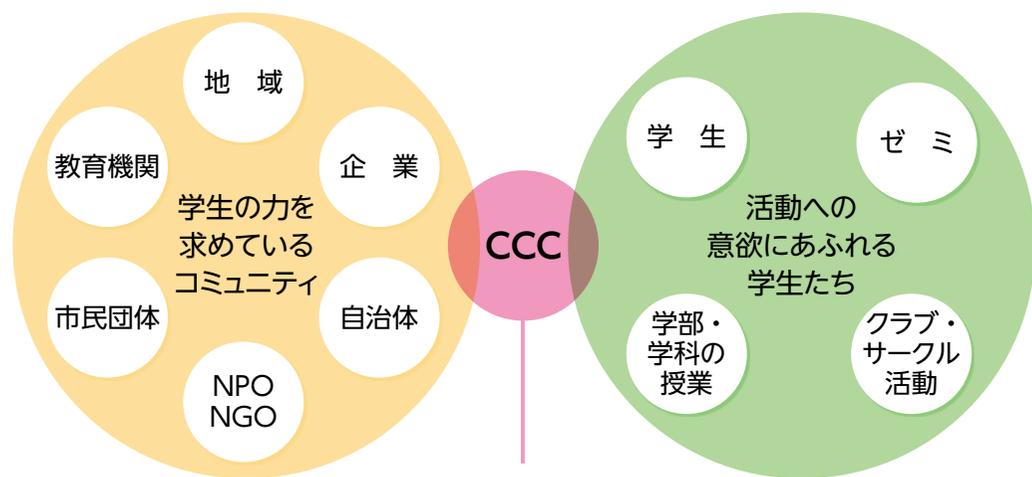
文責：小早川 真衣子
協力：覚王山商店街振興組合、愛知県産業労働部商業流通課

3.2 活動サポート

みんなが蒔いた「種」を、大きな「樹」に育てたい。
地域貢献、社会貢献活動をきめ細かくサポートします。

「チャレンジしたい!」と自主活動への意欲が芽生えるきっかけは、個人的な興味・関心、学部・学科の授業、ゼミ活動、クラブ・サークル活動など、学生一人一人異なり、活動の目的や内容も多岐にわたっています。そこでCCCは、学生とコミュニティとの出会いをコーディネートし、学生の思いを具体的な活動へと結びつける橋渡しをしています。

特にCCCを拠点に活動する学生団体(P.12参照)には、CCCスタッフが「アドバイザー」として寄り添い、活動を進めていく上で見つかった課題の解決をサポートしています。運営資金をサポートする「チャレンジファンド」(P.14・15参照)のほか、2015年度からは学外の地域団体とのコラボレーションを実現する「コラボメッセ」(P.4・5参照)を年1回実施するなど、支援制度を拡充しました。



学生とコミュニティをつなぎ、さまざまな地域活動を活性化します

サポートの3つの形

- (1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング …… 11
- (2) 学生団体などによる自主活動の支援 …… 12・13
- (3) 【学内助成事業】チャレンジファンド …… 14・15

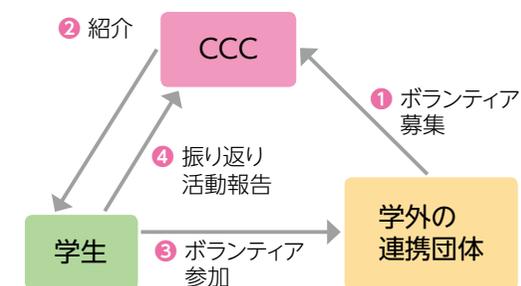
(1) 地域の多種多様なボランティア活動へのマッチング

自主活動に挑戦する学生の初め的一步として、ボランティア活動への参加があります。

センターでは、ボランティア募集情報の収集、学生への紹介、学生スタッフらによる窓口相談などを通して、マッチングを行っています。

ボランティア募集情報は、センターでの掲示のほか、ひと月に2回、全学生に電子発信。活動分野は、国際交流、青少年育成、福祉、環境、まちづくりなど様々です。2017年度は、述べ2,106人が活躍しました。

ボランティアコーディネートの仕組み



国際 香港学生交流会

連携先：公益財団法人 名古屋YMCA

香港留学生との交流会に参加しました。私がCCC学生団体「エコのつぼみ」に所属し、環境に関するボランティア活動を行っていること、また中国語の専攻であることから、「エコのつぼみ」の活動について中国語でプレゼンテーションをしました。伝わっているのが終始不安ではありましたが、大きな拍手と言葉をいただき、達成感が胸がいっぱいになったことは忘れられない思い出です。その後一緒に食事やゲームをして、うまく言葉が通じなくても、笑顔あふれる一日になりました。交流会を通して、人のつながりの大切さに改めて気づき、国境を越えてもそれは変わらないことなのだと思えました。また、香港の学生との交流によって学ぶことも多くあり、私自身とても成長することができました。

交流文化学部 3年 飯島 里奈

子ども・福祉 わくわくフェスタ in ぽけっと

連携先：東部地域医療センター ぽけっと

私たちは「ぽけっと」で行われたイベントでブースを出展させていただきました。その中で、保育を学んでいる私たちは私たちの強みを生かしエプロンシアターや人形劇、手遊び、小麦粉粘土作りなどを企画しました。このボランティアを通して、「ぽけっと」のような施設があることや発達に遅れや不安がある子どもたちに対する支援の方法を学びました。最初は戸惑うことも多くありました。しかし子どもたちと接するにつれて子どもたちの反応や笑顔など楽しんでくれてる姿をみて私たちも自然に笑顔になりました。大好きな子どもたちに触れ合える貴重な体験になりました。

福祉貢献学部 2年 村井 明日香・水野 綾子・宮澤 円来

防災 避難所宿泊体験

連携先：ボランティアサークル JDRTヨタ(トヨタ自動車(株))

9月2・3日にトヨタスポーツセンターにて「岡崎平和学園」「オイスカ」「ぬくもりの会」のみなさんと1泊2日で避難体験を行い、防災や災害時の対処法などの理解を深めることができました。防災・災害に関する知識以上に、子どもや異文化の人々、老人の方や障がいをもっている方など、様々な人が同じ場所で過ごすことの良い点や難しい点などが今回の事業を通して見えました。実際に災害が起きて避難所で様々な人と出会った時に、相手が何を考え、どうしたらいいのかわからなくなると感じます。そんなときに大学生がどんな行動をすべきか、どんな対処をすべきかなど、相手の立場となって体験をするきっかけになりました。要配慮者の方にはこういう時には頼ってもいいんだと安心させ、一般の方にはこういう時に助けが必要なんだと知ってもらうことが大切なのだと感じました。

創造表現学部 1年 塩沢 亮介

福祉 ぼらマッチ!なごや [みんな de Café]

連携先：NPO法人楽歩

「身近にないから知らないのではない。わからないと決めつけているから見えていないだけなのだ。」6月に行われた「ぼらマッチ!なごや」でNPO法人楽歩(らぶ)と一緒に「みんな de Café」を開いた。これは障がい者の方々や学生でカフェを出し、その動きをたくさんの人に近くで見ってもらうことで障がい者に対する否定的なイメージをなくしていこうという企画である。私たちの得意不得意と同じように障がいは個性であることを交流することで知り、互いに認め合えればそれぞれの特徴を大事にできると思った。一度、目にしたものに興味を持って体感してみる。そうすれば視野が広がって感受性が豊かになり、好奇心の泉が枯れることはないと思えた。

創造表現学部 2年 加藤 弘夢

(2) 学生団体などによる自主活動の支援

ボランティア活動への「参加」に留まらず、同じ社会問題に共感する学生たちが集まり、自主的に活動しています。

CCCを基盤に自主活動を行っている学生団体を「CCC学生団体」とする、登録制度を設けています。その数は現在、約30団体。そのほとんどが、学生のみではなく、地域の市民団体・福祉施設・企業などと連携して活動しています。

CCC学生団体にはスタッフがアドバイザーとして就き、活動の「伴走者」として



地域活動に向けてのミーティングをサポートします。また、自分たちの体験を振り返るための自己点検報告書を共に作成し、支え合いながら活動を改善・継続できる仕組みを構築しています。

学生団体合同企画

2018年2月18日(日)、星が丘キャンパスにて、東日本大震災で被災し、愛知県に避難してきている子どもたち、大学近隣の子どもたち対象に学生団体が共同でワークショップを行いました。11月から9団体が集まって準備を始め、会議を重ねながら当日を迎えました。参加した子どもたち30人に、学びや楽しさを提供できるよう、およそ80人(当日ボランティア8人)



振り返り会の様子の学生たちでイベントを作り上げました。イベント終了後には、総代表の学生により、振り返りの会が行われました。

総代表より仲間へのメッセージ

CCCは、今、たくさんの学生団体ができて大きく成長し、1つの段階までは達したと思います。でも今、その多くの団体はそれぞれ課題があり、代表はきっと大変な思いもしています。悩みは違っても、お互いが協力し合えばきっと解決できます。

代表は、自分もそうだったように、何でも一人でがんばろうとして、辛くてやめたくある時があると思います。でも、その辛い思いは必ず自分を成長させるし、僕は1年やってきて本当に良かったと思います。だけど、代表だからこそ、メンバー

を信用してお願いすることも大事で、代表はみんなにその大変さを少し共有して、役割として任せてあげてください。メンバーの人たちは、悩みながら努力している代表を助けてあげてください。

みんなで1つのことを成し遂げることで、支え合える団体の絆をつくりたいと思い、このイベントを開催しました。参加してくれたみなさん、ありがとうございました。

心理学部 3年 服部 誠



自治体 ∞ 学生

佐久島プロジェクト

連携先・西尾市 佐久島振興課

原田 様の声



近年SNSで話題となっている「佐久島」は、高齢化が進む島です。私たちは農業体験を通じた佐久島の魅力発見と、特産物づくりを目的として活動しました。今年度は佐久島を5回訪れ、島内の散策や農業体験、島民との交流を行いました。観光に行くだけでは知ることができない昔の様子を教えてください、島なら

半年をかけて、サツマイモ栽培や商品化への取組にご協力をいただきありがとうございます。11月の収穫祭を終えてから、収穫したサツマイモを使った「干し芋」の製造や「芋焼酎」の試作品の製造の委託など、1年目で一定の成果をあげることができました。また2月の意見交換会では半年の活動の振り返りと学生さんが思う「佐久島に残したいもの」「未来の佐久島」について報告がありました。来年度も継続して協働事業をお願いしたいと思います。

ではの経験ができました。

“学生やボランティアの人に島を楽しんでもらいたい”という島民の方の想いや、“島民に誇りをもって特産物をつくってもらいたい”という市役所・企業の方の想いなど、この活動を通してたくさんの「想い」を知ることができました。

交流文化学部 4年 牧野 菜都美



地域 ∞ 学生

熊本支援チーム「くまえる」

物販に来場して下さった人々の声



2016年4月に発生した熊本地震を受け、「熊本にエールを」という意味を込めて「くまえる」を立ち上げました。愛知県から自分たちにできることは何か話し合い、初めに、大学内で集めたメッセージをハンカチに印刷し、東海大学熊本キャンパスに届けました。学園祭では、蛍丸

「他にも商品を買って支援しているよ」「買い物をするだけで支援ができるのは、募金よりもしやすくいいね」「みんなが熊本のことを応援しているよ」など

サイダーなどの熊本の特産品を取り寄せ、物販を行い、熊本の魅力を伝えました。また、より多くの方に熊本地震や熊本の魅力を伝えるため、アピタ長久手店でも物販を行いました。「くまえる」での経験を活かし、これからも被災者支援について考えていきたいです。

心理学部 4年 佐田 帆波



地域 ∞ 学生

tASUkeai

連携先・愛知県警察 子ども女性安全対策課 安藤 様の声



私たちは地域の児童館や小学校で防犯教室を展開しています。通学などで外に出ると、「自分の身は自分で」守らないといけません。自分の身に起こるもしもの危険を子どもたちが普段から自分ごとに考えられるような意識を植え付けることが大切だと活動の中で気付かされました。そこで、ただ座って話を聞くだけの防犯教室ではなく、遊んだり走ったり五感に刺激を与える楽しさ

tASUkeaiのみなさんは、私たちが推進する体験型防犯教室を「どうしたら楽しく学べるか」という子どもの視点と、学生ならではの柔軟な発想でアレンジし、独自のプログラムで教えてくれています。昨年度は長久手市安心安全課の方とも連携して市内2つの小学校で防犯教室を行うとともに安全マップ作りをするなど、新しい活動にもチャレンジされています。今後も地域の安全・安心に繋がる活動を継続してもらえれば、と期待しています！

を取り込むことで心に残る防犯を築くことができました。今後は防犯マップ作りにも力を入れていき、「みんなの身はみんな」守れるような、地域を巻き込んだ防犯まちづくり活動を展開していきたいです。

メディアプロデュース学部 3年 加藤 沙也果



(3) 【学内助成事業】チャレンジファンド

CCCでは、学生によるさまざまな自主活動を助成する「チャレンジファンド」を設けています。地域のニーズや思いに応える活動や、社会的に意義の高い活動に対して、愛知淑徳大学後援会の協力を得て、資金面での助成と活動サポートプログラムの提供を行っています。

2017年度は、「一般部門(助成額上限10万円)」、「スタートアップ部門(助成額

上限5万円)」の2部門において、公開プレゼンテーション及び学内の教員たちによる審査の結果、11団体が採択され、それぞれの活動を展開しました。



2017年度チャレンジファンド採択団体一覧

	団体名	活動内容	主な連携先
スタートアップ部門	Dimples	精神障がい者の社会復帰を支援する施設と商品開発を行いながら理解を深める	株式会社フォルツァ
	茶華道部	視覚障がい者に対してお茶会を開き、茶道を通して交流を深める	NPO-CS ネット東海
一般部門	アミーゴ	県内の外国人児童を対象に多読活動、学習支援、就学前指導に取り組む	NPO 法人シェイクハンズ、西尾市教育委員会
	ボランティアサークル あじゅあす	地域住民への障がい者・高齢者への理解の拡大と、住民同士の繋がり強化を目指す	社会福祉法人ポレポレ、オーネストひびの大宝
	愛知淑徳大学ウィンドオーケストラ	被災地演奏会を通して復興支援の在り方を考え、東北の「今」について伝えていく	気仙沼中学校吹奏楽部、気仙沼高校吹奏楽部
	きらきら☆したら	愛知県設楽町の魅力を伝えることを目標に、現地と交流しながらイベントなどを企画・実施する	設楽町
	共同料理なごやか	孤食など食生活の改善、多世代にわたる繋がり、地元野菜のPR	三ヶ峯元気会、サロンいこい
	コミュカフェ	住民の交流を深め、災害時などに助け合える地域をつくる	レスパイトハウスやさしいところ、千種区社会福祉協議会
	エコのつぼみ	環境啓発活動に加え、里山保全活動を支援するため、ワークショップを企画・実施する	モリビトの会、ソニーグローバルマニュファクチャリング & オペレーションズ(株)
	チームわんわん	小学校での授業やワークショップを通じて介助犬の認知度・理解拡大を図る	社会福祉法人日本介助犬協会
Fsus4	高齢者施設や障がい者施設での演奏や交流を通して、相互に理解を深める	社会福祉法人たいようの杜、森孝しぜんかん	

2017年度採択プロジェクトのうち、2団体の活動を報告します。



スタートアップ部門

茶華道部「視覚障がいを持つ方々に茶道の世界を体験してもらおう！」

私たち茶華道部は、視覚障がいを持つ方々のためにお茶会を開きました。

視覚障がいを持つ方々はなかなかお茶会に参加できていないという現状があることを知り、何かできないか、と思いチャレンジファンドに応募しました。実際に障がいを持つ方々と関わってみると、少しのサポートがあれば健常者の方と変わらないことを強く感じました。障がいの有無でお茶会に行きたいという思いが左右されないような、誰もが気軽にお茶会に行けるような環境が作れたらと思います。

すべての人が心から楽しめるようなお茶会を目指して今後も障がいをもつ方々と茶道を



2017年7月1日 お茶会の様子

つなげていけるよう活動していきたいです。

メディアプロデュース学部
3年 鈴木 恵介



一般部門

きらきら☆したら『知ってみたら、交流したら』プロジェクト

設楽町の活性化のために、「設楽町への興味を持ってもらうこと」「設楽町の魅力を知ってもらうこと」を目標に活動しています。茶摘み体験や歌舞伎ボランティアなどの体験型プログラムの実施や、設楽町でのイベントのお手伝いなどを行っています。活動では、自分たちがやりたいことだけになってしまわないように、地域の方々が何を求めているのかを常に考えました。設楽町の方々は、いつも温かく私たちを迎え入れてくれます。「また来てくれてありがとう」という言葉が嬉しく、様々な活動を通して少しでも設楽町が活性化するための力になりたいと感じています。こ



2018年2月12日 設楽町田舎歌舞伎での様子

れからもたくさん設楽町に足を運びたいです。

交流文化学部 4年 堀場 由樹



4 学生スタッフの活動

学生スタッフは、同じ学生という目線から、学生の持つさまざまな思いを形にする重要な役割を担っています。

会話を通して、一人一人の個性を活かし、新たなチカラを共に発見するお手伝いをしています。

また、ボランティア紹介業務だけでなく自ら企画なども行い、今年度は(株)デンソー主催の「デンソーハートフルまつり」ブース出展や、学内で「CCCについて知ってもらおうプロジェクト」を企画・実施するなど、活動の幅を広げています。



\\ 長久手市大学連携 2017 //

「目指すのは日本一の福祉のまち」



長久手市と市内4大学(愛知県立大学、愛知県立芸術大学、愛知医科大学、本学)が連携して、まちの目標をかなえるために、ワーキングを行い、ディスカッションを重ね、企画の提案を考え合いました。本学からは運営委員の小島准教授、CCC学生スタッフが参画して活動を行ってきました。

1 お互いの大学を知る「4U」、 長久手の今を知る・今後のビジョンを知る

福祉、芸術、医療といったそれぞれの強みと、強力なネットワークを持つ4大学。お互いを知り、市長やまちを支える方々から話を聞きながら、学生たちだからこそできることを模索しました。



2 長久手の現場を知る

「日本一の福祉のまち」のために自分たちは何ができるか。ニーズを確認するために、障がいのある子どもたち、高齢者、ボランティア団体のみなさんがいる現場に足を運んで「いかに地域に貢献できるか」「まちの人のために、自分たちのやりたいことは何か」を考えます。



3 考え、話し合い、悩み…また考える

学生スタッフで何度も会議を重ねました。プランを作って壊し、作って壊し。「みんなが幸せと感じるまちって一体なんだろう」お互いに問いかけ、この半年間で出会ってきた方々を思い浮かべながら、企画を完成させていきました。



2018年3月23日「コラボ！逆指名大会」で 企画をお披露目しました

子どもたちが安心して育っていけるまち、子どもたちをみんなで見守っていけるまちを目指す長久手市。ですが、昔から住む高齢者の方々からは「知らない顔ばかりが増えた」という声も聞こえてきます。

みんな同じ長久手市民。これからの未来を担う子どもたちと、昔から住む人たちをつなげられたら、きっとみんなが1つになれる。そんなまちになるような、企画を考えました。

ながくて一家プロジェクト ～はじめてのおつかい～

企画内容：子どもたちがあぐりん村へ行き、生産者や地域の方々と交流しながら買い物し、買ってきた食材を使ってご飯を作って食べながらみんなで「おつかい」の様子を振り返ります。子どもたちの「おつかい」を通して様々な人が出会い交流し、「家族のような関係性」をまち全体で作っていくことがねらいです。
対象者：長久手市内の小学1～3年生、その保護者
人数：3～9家族 回数：年2回



参加した学生のコメント

私たちは4大学連携に参加するにあたり、長久手市長から「わづらわしいまち」についてのビジョンを伺い、長久手市で活動している様々な方々に会いに行きました。そこでは、自分の良さを周りの為に生かしている素敵な方々に出会うことができました。他大学の学生とも知り合うことができ、多くの人に出会うとても良い機会に

なりました。今後も、子どもたち、障がい者、高齢者、学生など、長久手にいる多くの人々が一緒に楽しい時間を共有することのできるイベントを考案し、みんなの笑顔を連鎖させたいです。

文学部 3年 長崎 里菜



CCC運営委員 小島祥美准教授より総評

4大学の学生間での意見交換の後に学生たちは、私たちにしかできないこと、私たちだからこそできること、を懸命に考えていました。つまり、「本学の強みを考える」ということ。これは、設立から10年を迎えたCCCに与えられた課題でもありました。約半年間、関わった学生と教職員は何度も話し合い、それでも時間が足りないからと1泊2日の合宿をして話し合い、学生間でも教員間でも話し合い…これらの情熱を重ねた結晶が、当日のプレゼン7分間でした。

賞も景品もないこの会に、なぜこんなにも学生も教職員も熱くなれるのでしょうか。

社会問題の解決のために懸命に取り組む人々に実際に会いに行き、その志に心を寄せ、共感し、自分に出来ることを真剣に考える学生がいる。その学生に全力で伴走する教職員がいる。これこそが、まさに本学の強みです。一緒に汗を流しながら歩むから、共に喜ぶことができるのです。



学生たちは、2018年9月に提案した内容を具現化します。



星が丘キャンパス

写真左上から、時計回りに

石黒 友理 (ビジネス学部4年)
鈴木 紗英 (交流文化学部4年)
小林 知世 (交流文化学部2年)
青砥 祐太 (交流文化学部1年)
伊藤奈央人 (ビジネス学部3年)
桑山千香子 (交流文化学部2年)
森野 詩穂 (ビジネス学部4年)



長久手キャンパス

写真左上から、時計回りに

長崎 里菜 (文学部3年)
鈴木 恵介 (メディアプロデュース学部3年)
古川 亮 (心理学部4年)
上古代健太郎 (心理学部1年)
和田 清花 (文学部3年)
加藤沙也果 (メディアプロデュース学部3年)



卒業する学生スタッフの言葉

誰かと一緒にやるのは面倒だ、そう思ってしまふ状態にあった僕は、1、2年目は1日だけのボランティアをいくつもやっていました。しかし当然ボランティア先には誰かがいる訳で、少しずつその繋がりの中で変わっていくものがありました。3、4年目は団体でのボランティアにも前向きに参加するようになれました。

1人では見えてこない景色や想いが、共にいる人々を通してこんなにも見えるのだと思ひ出させてくれた4年間でした。

心理学部 4年 古川 亮



「何かやってみよう」そんな学生さんの後押しができることがとても嬉しい瞬間でした。

かつての私もそんな気持ちを持ってCCCに訪れ、様々な経験を通して知らない世界を見ることができました。挑戦は、ワクワクする気持ちと同時に不安な気持ちもあり、一歩踏み出すのは少し勇気がいること。ですが、挑戦したからこそ、人・学び・意外な自分の一面などたくさんの出会いがあることを私はこの場所で学び、挑戦する楽しさを知りました。

ビジネス学部 4年 森野 詩穂



2017年度 全体講評

コミュニティ・コラボレーションセンター
センター長 大塚 英揮
(ビジネス学部 教授)



CCC開設11年目にあたる2017年度は、過去10年の実績をベースに次のステージに飛躍するための仕組み作りに取り組む1年でした。

社会連携のプラットフォームであるCCCの利用者を増やす、「間口を広げる」ことを目標に、チャレンジファンドのスタートアップ部門の充実、CCCスタートアップ講座等入門科目の積極開講といった策を実行。その結果、CCCの利用者数を前年度比で3300人近く伸ばすことに成功しました。

CCCで提供する学び、誰かのことを思って

行動すること、見えない社会問題に目を向け現場に飛び込むこと、は、学生の人間性を豊かにすることにつながるとしても大切な学びです。多くの学生にこの素敵な「学びの機会」を提供できるよう、今後もスタッフ一同努力していきます。

学生たちに貴重な学びの場所をご提供いただいている地域の皆様、企業、団体、行政の皆様には深い感謝の念で一杯です。

今後ともご指導ご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

初めてボランティアを募集される方へ

当センターでは、ボランティア募集情報の取り扱いについて、「ボランティア情報の取り扱いに関する方針」を基本としています。ボランティアを募集される場合は、まずはHPでご確認いただき、お電話でご連絡ください。

URL: <http://www.aasa.ac.jp/institution/coc/volunteer/01.html>

2017年度 CCC運営委員

委員長	大塚 英揮	(ビジネス学部)
	天野 成昭	(人間情報学部)
	加藤 友紀	(健康医療学部)
	久保田 絢	(ビジネス学部)
	黒川 文子	(福祉貢献学部)
	小島 祥美	(交流文化学部)
	高野 恵代	(心理学部)
	平田 亜紀	(グローバル・コミュニケーション学部)
	星野 将直	(文学部)
	村上 泰介	(創造表現学部)
	村治 宏	(コミュニティ・コラボレーションセンター)
	小早川 真衣子	(コミュニティ・コラボレーションセンター)
	和田 恭治	(コミュニティ・コラボレーションセンター)

スタッフ

●長久手キャンパス

青木 周子
東 那々子
内山 恵
蓮見 真紀子
脇田 夏貴

●星が丘キャンパス

秋田 有加里
今井 里香
菅野 淑
武藤 圭代